

第 10 回 福岡市科学館に係る指定管理者評価委員会 議事概要		
日 時	2024 年 12 月 3 日(火) 17:00 ～19:30	場所：福岡市科学館 4 階 会議室 2・3
出席者 (敬称略、順不同)	委員長 伊藤 明夫 北九州市立いのちのたび博物館 元館長 副委員長 大石 桂一 九州大学経済学研究院 教授 出良 心一 公認会計士協会北部九州会 公認会計士 酒井 美佐緒 福岡市立南片江小学校 校長 渡辺 亮一 福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授 [指定管理者] ※議事(1)～(3)のみ出席 株式会社福岡サイエンス&クリエイティブ [事務局] 福岡市こども未来局こども政策部 香月課長、鐘ヶ江係長、興梠担当	

【議事概要】

1. 開会
2. あいさつ
3. 議事

- (1) 委員長の選出について
- (2) 令和 5 年度年報の報告

資料にしたがって指定管理者から説明があり、内容についてのいくつかの質疑応答が行われた。
以下、要旨をまとめる。

委員	利用者が 500 万人達成とのことだが、コロナ前の水準に戻ったか。
指定管理者	戻ってきているという実感であるが、コロナ前の利用者数は開館直後の一時的な増加状態であったため、単純に比較することは難しい。
委員	入館者の居住地属性が、前年と比べて広範囲に分散している理由はあるか。
委員	当初は七隈線の延伸の影響かと推測していたが、交通手段が大きく変わっていないことからその理由のみではないと考えられる。令和 5 年度は県の補助金を活用して小中学生を無料化したことやイベント内容の魅力により幅広いエリアからの集客に繋がったのではないかと考えられる。
委員	広報はどのような方法で実施しているか。
指定管理者	SNS、ホームページを活用するとともに、学校へのチラシ配布や市政だよりをきっかけに来館する人も多い。情報収集手段を把握することは重要であるため、利用者アンケートにおいて情報収集手段の選択肢も増やして把握できるように見直しを行った。

(3)「第2次5カ年計画」に基づく管理運営に関するセルフモニタリング結果について

資料にしたがって指定管理者から説明があり、内容についてのいくつかの質疑応答が行われた。

以下、要旨をまとめる。

委員	サイエンスコミュニケーション開発会議に関し、他館の先進的取組はどのような方向性を参考にしようとしているか。
指定管理者	子どもへの関わり方は館ごとに特徴があると考えており、特にサイエンスコミュニケーションの取組事例を参考にしている。
委員	「展示アイテムの更新」における自己評価が低いことについて、経緯とどのように改善されているか。
指定管理者	展示更新の一部遅れが生じたことによるものであり、今後は展示更新の方向性の協議期間も踏まえた余裕のあるスケジュール設定に留意したい。
委員	リニューアル後の展示については、AI や IT・デジタルが主体となっており、触って体験する場が少なくなっている。特に視覚障害の方の対応は留意が必要である。
委員	科学館の認知度をあげるための工夫として、まだ来たことがない人に対するアプローチは何か実施しているか。
指定管理者	館のコンセプトが「サイエンス&クリエイティブ」であるため、アイディアの面白さや発想や探求の姿勢を出していきたい。科学館に来たことない人がこんな面白いことを科学館では実施しているという興味・関心の部分を大事にしていきたい。
委員	特別展の人気の偏りがなくなるような努力はしていただきたい。
委員	小学4年生を対象とした1日学習は意義があるため、是非継続していただきたい。 また、「教員支援プログラム」について、教員と連携することは重要であると考えている。

4. 指定管理者退席、評価